

2009年9月14日(月) 13:50-15:00

パネル・ディスカッション「アジアの抱える課題とニーズ」

秋池 玲子 ポスト・コンサルティング・グループ パートナー&マネージングディレクター

富山 和彦 株式会社経営共創基盤 代表取締役 CEO

松本 大 マネックスグループ株式会社 代表取締役社長 CEO

チョウ・ドンスン ソウル国立大学 経営学部 教授

張 維迎 北京大学 光華管理学院 院長

ジャン・セジン シンガポール国立大学 教授

ココ・マスターズ (モデレーター) タイム誌日本支局長

本セッションでは、人口の高齢化や都市集中、環境問題などアジアにおける基本的課題の認識に基づいて、将来いかにアジアが持続可能な成長を実現していくか、またその中で特に日本がどのような役割と責任を果たすのかについて討議した。

### チョウ

- 景気後退をきっかけに保護貿易主義が台頭することは世界経済の常であり、今後3年間はこの傾向が続きうることに危惧を示した上で、それを超えてアジア諸国が協力して共に歩んでいくことが重要である。そのため EU で実現したような連合体制をアジアにおいても構築していくことを志向すべきであり、そこで鍵となるのは分業体制の責任を適切に割り当て、各国の強みを生かすこと。例えば製造業においては、ハイエンドからローエンドまで、日本、韓国、中国などが協力・連携し他の国をまきこんでいくなどが重要な活動の在り方となると思われる。

### 松本

- 中国を始め、アジアは世界的に見ても成長著しい有望な地域だが、一方中国でも高齢化が進んでおり、将来の人口減少による貯蓄率低下なども鑑みれば、外部からの収入で国を養う能力を磨いていくことが重要。そのために今後開かれた国債市場をしっかりと確立していくことが必要であり、既に大きな市場を確立している日本は、資金調達というアジアにおける重要課題について、貢献できると考えられる。

### 富山

- 少資源の国が高速で経済成長すれば当然のことなのだが、日本は少子高齢化や金融

危機等のいわば「課題先進国」であり、アジア諸国が今後持続成長する上でぶつかるだろう課題に先んじて直面してきた。日本がそれらをどう克服したかをアジア各国と共有することで地域に貢献していくべき。

- 経済財政諮問会議や産業構造審議会など、いくつかの公職でマクロ経済政策にも関わってきた立場から言えば、日本のように少子高齢化で資源のない国が内需主導で持続成長し続けるのが困難であることは明白であり、内需・外需の二元論と決別し、自らをエコシステムの中にも組み込んでどう成長していくかを問わなければならない。新自由主義対社会民主主義という視点にとらわれ続けること、また支援するとか援助するとか、上からの目線でアジア諸国を見ること、いずれももはや前世紀的すぎるのではないか。日本としてはモノを売るという従来の発想から早期に脱却し、モノづくりのシステムやサービスを提供・展開することで、アジア諸国の経済発展に貢献していくことを考えなければならない。

#### マスターズ (モデレーター)

- 2050年には人口の半分以上が60歳以上になるだろうと言われている。中国、インドでも人口が更に増大し、また多くの中国人人口が都市部に集中するだろう。天津のエコシティプロジェクトが挙げたが、日本は都市問題についてどのように貢献できるか。日本は環境技術を持っているが具体的にどうしたらいいか。

#### ジャン

- 日本の都市は輸送機関が発達していて非常に効率がいいが、“Architectural Innovation (構造的イノベーション)”が必要。構造的イノベーションとは他の人たちがアプリケーションを作っているのに対してシステムもしくは構造物を提供するという事。グーグルとヤフーの違いは、ヤフーはメディア会社を目指し、グーグルは一つのアーキテクチャーを提供し、その上で他社に自由にアプリを作らせている。日本はグーグルのようなシステムを提供すべき。例えば効率的な水資源の活用システムをアジアに提供してはどうか。

#### 秋池

- アジアにおいて日本は成功事例を作って発信していくべき。もともと日本は低炭素社会に向けた技術や水道のインフラ、下水道の能力、電気等かねてから先進的な取り組みをしている。しかし、モノを売ってはいるがソリューションとしてサービス

を含め提供していくことにまだまだ目が向いていない。プロダクトではなく、ソリューションを売る、受け取る側にとって解決策を提供することによって変わっていくべきである。それを含めた雛形を日本の中で作って、展開していくことは非常に有効だ。ただ日本の求めるスペックは非常に高いため、できれば松竹梅のようにローエンドからハイエンドまでのスペックのメニューを選べるようにしてはどうか。

#### 張

- 日本は自分の強みにフォーカスすべき。ローエンドとは言わないが、中間の部分は中国の企業に任せてほしい。

#### 秋池

- 技術者というのは毎日開発をしていけばより良い技術を求めてしまうものだ。人件費の安い国で毎日ローエンドものを作っているとミドル製品を開発できるようになってくる。以前は大きなコンピューターでしかできなかったものが今はパソコンで簡単にできる。そうすると日本企業が当初は中級品だった製品で今やヨーロッパのオートバイメーカーを駆逐してしまったように、追いつかれ追い抜かれといったことが出てくる。これは中国やインドといったアジアの閉じた市場だけに起こることではない。もともと日本の市場だと思っていたアメリカやヨーロッパにおいても脅かされることも出てくる。「内需拡大」というのは間違った目標設定だし、一方グローバル市場で日本だけが発展すればいいという発想ではなく、オープンイノベーションも大事。提携関係の中でアジアの国において使用や開発を共に行い活性化を図るべきである。

#### 張

- 中国企業もいずれハイエンドに参入すると思うが、現状では日本はハイエンドに集中する分業が大切。

#### ジャン

- 中国は内需と輸出によって成長していく。多くの中国企業は海外でビジネスをしたいと考えており、そのため交通制度やビジネス慣習を変えようと努力してきた。海外企業は中国の国内市場を正しく理解しなければならない。19世紀はヨーロッパの世紀、20世紀はアメリカの世紀だった。21世紀はアジアの世紀だ。相互信頼を築き協力する以外道はない。その点において、日中韓での歴史認識を正しくするということが大事。コミュニケーションを円滑にすることによってアジアの協力体制

を実現していきたい。

### 富山

- ローエンド・ハイエンド議論が盛り上がっているが、日本企業だからハイエンドを作ればよいという単純な問題ではない。日本は元々内需依存率が高かったので「日本企業の戦略＝日本の戦略」でやってきたが、外需が増えるとその構図は成り立たない。つまり日本企業にとって良いことと日本経済にとって良いことは当然イコールではなくなる。日本国内向けハイエンド製品は、グローバルマーケットの中ではこっちに過ぎず、圧倒的マーケットボリュームはミドル・ローエンドにあるという現実はどう対応していくかが問われる。日本企業がハイエンドを目指す／目指さないという問題と、日本は労働コストが高いからハイエンドを作る／作らないというのは全く別の問題である。今後日本のメーカーは、日本・中国・欧州それぞれの地域でどう機能分担するかの戦略が必要。日本企業が中国で物を作って利益を上げて日本国民の所得に直結しない。過去の成功体験から、日本メーカーが、巨大な内需ベースで成り立っているという呪縛から離れられないでいる。一国経済だけを見るのではなく、グローバル時代を見据えて、早期に 20 世紀型のフレームワークから脱却すべきである。

### チョウ

- ハイエンド、ローエンドについては、ローカリゼーションに力を入れなければならない。日本と韓国も中国同様、他国にもっとマーケットを開くべきだ。中国がアジアで最も開放されている。色々な国から中国にやってくる。アジアで将来、経済統合を考えた時に日本政府も韓国政府も保護政策はやめたほうがいい。

### マスターズ

- アジアの国々との協力の橋渡しの仕方、教育について。

### 松本

- アジア地域での協力を考えると、政府など大きな枠組みを関わらせると遅くなると思われ、企業・ビジネスにとってはイデオロギーは煩わしいものであり、焦点を絞ったテーマで協力していくことが重要。中国、日本、韓国、シンガポールが集まるような枠組みが今はない。大学でも、若い内に交流できるような学生の交換システ

ムを運用する等のコンセプトは有効と思われる。

**張**

- 中国の学生は言葉の問題のためにあまり日本に来たくないとっており、より積極的に英語や中国語に力を注ぐ必要があるのではないか。

<質疑応答>

- 質問①アジア連合の構想について。

**張**：連合構築は難しいと思う。

**ジャン**：時間はかかるかもしれないが、石炭鉄鋼共同体から始めた EU のように、アジア諸国の中の協力は、まずその内需を強化する取組みからの着手という方向で可能であろう。

- 質問②中国がグローバルな発展の過程で米国との摩擦を生じているが、アジア各国の協力という観点からはどう考えるか。

**富山**：アジア各国においては所得再分配により中産階級を増やして各国における内需を強化することが重要だと考える。また、アジア連合的な取組みの最初のステップとしては、域内共通市場を作るためのインフラとして、まずは FTA とオープンスカイの実施を検討すべきではないか。

\*\*\*\*\*